
一匹の男

カゼノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一匹の男

【Nコード】

N7336D

【作者名】

カゼノ

【あらすじ】

一匹の男、ゴンデラの一日ストーリー。

ある日、一匹の男がいた。

そいつはものすごく太っていて、肌の色がカッコイイ黒で、喧嘩強くて負けず嫌いのオオブタ、ゴンデラ。

今日も、「ブタのいる町」の中心で暴れているだろう。

「おいっ！おめえッ！俺の納豆食っただろ！？」

ゴンデラは苛立ちながら言った。

「ハア！？そんなの知るかよッ！」

「とぼけてんじゃねえ！！てめえッ！」

ゴンデラはそいつの首を掴んだ。そいつはふりはらおうと抵抗する。

「だから！知らねーって言ってるだろっ！」

そいつはゴンデラの腕を掴み、強くふい払ったと同時に、ゴンデラは体勢を崩した。

「なんでお前はッそんなに納豆にこだわるんだよッ！」

「納豆がないと生きていけねえんだよッ！」

ゴンデラの言葉にそいつは、

「じゃあお前、永遠に納豆食ってる！馬鹿野郎！！」

そいつはゴンデラに言い残し、その場を去って行った。

「ちえ！ツつまんねー奴だ。はあ 今日は見つかりそうにもないな
…諦めるか」

ゴンデラは納豆を諦め、その場を歩き出した。
人々（ブタ達）はゴンデラを遠ざけながらそうつと歩いて行く。

ゴンデラは周りを気にしない大胆な奴なのだ。今日の出来事なんて
毎回のことだ。

俺は、100勝0敗だったが、今日初めて負けた。というより喧
嘩じゃなかった。

俺の勘違いだった…。自分に反省をした。

バカな俺だったと。

カーカー…

カラスの鳴き声？

それとも「もう夕方になりましたよ」の合図なのか??

ゴンデラはボツとダラダラと歩いて聞いていた。カラスの声を。
っ…！

「もう夕方かよっ！ この野郎が！っ明日野郎は！バカヤロだー！
ッッ！！」

叫ぶゴンドラ。

寂しい夜になりそうだ。

終

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7336d/>

一匹の男

2010年10月28日03時20分発行